



# 04

基本  
目標

地場産業が活躍する、  
活力あるまち

基本  
方針

- ①産業・雇用の振興
- ②経済効果を実感できる観光振興

## 基本方針① 産業・雇用の振興

施策

1

# 農業の振興



### これまでの取組と現状

本市では、長門市農地集積バンクを中心に農地集積を進めながら、一市一農場構想に沿って集落営農法人の育成と経営拡大(6次産業化による多角化)を図ってきた結果、集落営農法人や認定農業者への農地集積が進んだことで、地域の担い手が一体となった取組を行うなどの成果がありました。また、一般社団法人アグリながとが発足し、担い手不足の解消や優良農地の維持確保、新たな農産物の産地化を目指した取組を行っています。

畜産業では、山口県や農業大学校などと連携して新規就農者の確保を進めています。

### 今後の課題

市民アンケート調査では、農業の振興とともに、後継者・担い手の育成・確保を進めることが最も多くなっており、人材の育成・確保の観点からも農業に興味を持ってもらえる環境づくりを進めていく必要があります。

多くの地区で法人が設立され農地の集積が進んでいますが、一方で優良農地の集積が完了しつつあることから、集積率が伸び悩んでいます。

また、集落営農法人で働くオペレーター等が高齢化しており、5年後、10年後の存続が困難な法人もあることから、法人間の統合やスマート農業の推進など担い手の確保につながる取組が必要です。

### 取組の方向性

活力ある農業の実現のため、生産基盤の整備を進めるとともに、人材の育成や地域の特性を活かした農産物の品質向上、魅力ある農村環境の整備を推進します。また、先端情報技術を活用したスマート農業の実現や民間企業との連携、効果的・効率的手法の導入など、新たな農業体系の構築を目指します。

あわせて、地元で生産された安全・安心な農作物を市民に提供し、農業の活性化を図るため、地産地消を推進します。

#### 目標指標 (KPI)

| 指標              | 基準値 (基準年度) | 目標値 (目標年度) |
|-----------------|------------|------------|
| 市内認定農業者の数       | 120人(R2)   | 120人(R8)   |
| 集落営農法人の数        | 30法人(R2)   | 43法人(R8)   |
| 学校給食への地場産食材の利用率 | 25.0%(R2)  | 40.0%(R8)  |

## 施策の展開

### (1) 農業生産体制の整備

- 農業の担い手として中心的な役割を担う認定農業者や農業生産法人の育成・支援を行うとともに、地域農業の担い手等への農地の集積を推進します。
- 農業、畜産業へ経営安定の支援をするとともに、消費者の求める「安全・安心」な農産物の生産に向け、有機農業等を推進します。
- 畜産に係る総合的な産業団地を整備し、効率的な経営及び生産の拡大を図ります。

#### 具体的な施策

- ・ 認定農業者や農業生産法人の育成・支援
- ・ 担い手等への農地集積
- ・ 農業、畜産業への経営安定対策
- ・ 有機農業の推進
- ・ 産業団地の整備

### (2) 農業の基盤整備

- 老朽化した農業施設の改修や水路の整備、農道の舗装などの基盤整備を推進します。
- 遊休農地や耕作放棄地の利活用を図ります。

#### 具体的な施策

- ・ 農業基盤施設の長寿命化対策
- ・ 棚田の保全
- ・ 遊休農地の利活用(再掲)
- ・ 耕作放棄地の解消

### (3) 農村環境の整備

- 地域住民等による農業用施設の多面的機能を維持する活動を促進し、市民参加による美しい農村環境づくりや水質保全などの自然環境保全を図ります。

#### 具体的な施策

- ・ 産地づくりの推進
- ・ 農業用水の水質保全
- ・ 多面的機能支払制度への取組や、活動組織の育成

### (4) 新たな農業体系の構築

- AIやIoTなど、先端情報技術を活用したスマート農業の導入や民間企業との連携を図ります。

#### 具体的な施策

- ・ スマート農業の導入支援
- ・ 新たな農業体系の推進
- ・ 民間企業との連携促進

### (5) 地産地消の推進

- 地産地消に向けて、直売所等における地元製品の提供体制の充実を図ります。
- 市民の地産地消に関する意識啓発を図ります。

#### 具体的な施策

- ・ 直売所等の整備
- ・ 食育と連携した地産地消の意識啓発



棚田ハーブマルシェ開催



スマート農業の導入支援

## 基本方針① 産業・雇用の振興

施策

2

# 林業・木材産業の振興



### これまでの取組と現状

林業においては、長門市林業・木材産業振興大綱に基づき「林業・木材産業の発展」及び「子育て世代に選ばれるまちづくり」に向けた取組を図っており、林業・木材産業成長産業化推進協議会による持続可能な森林づくりを目指した取組、木育推進拠点施設「長門おもちゃ美術館」を核とした森林への理解や木の温もりに触れる機会を増やす取組を行ってきました。

その結果、一般社団法人リフォレながと及び特定非営利活動法人人と木が発足し、また住友林業(株)との包括連携協定を締結、自伐型林業の推進のため地域おこし協力隊の受け入れを行い、航空レーザー測量による森林資源の把握、森林所有者の意向調査を実施し、森林の集約化を進めるなど成長産業化に向けた川上から川下までの幅広い取組を進めています。

### 今後の課題

市民アンケート調査では、林業の振興とともに、後継者・担い手の育成・確保を進めることが最も多くなっており、人材の育成・確保の観点からも林業に興味を持ってもらえる環境づくりを進めていく必要があります。

担い手の確保、路網の整備、長期施業契約による集約化、苗木の確保、資源循環システム、サプライチェーンの構築、木材利用の普及促進など、さまざまな政策を長期的な視点から複合的に推進していく必要があります。

### 取組の方向性

長門市林業・木材産業振興大綱の実現を目指し、持続可能な森林づくりによる仕事づくり及び計画的な間伐を推進します。

#### 目標指標 (KPI)

| 指標       | 基準値 (基準年度)                | 目標値 (目標年度)                |
|----------|---------------------------|---------------------------|
| 林業新規就業者数 | 9人(R2)                    | 26人(R8)                   |
| 素材生産量    | 12,000m <sup>3</sup> (R2) | 40,000m <sup>3</sup> (R8) |

## 施策の展開

### (1) 林業・木材産業の生産体制の整備

- (一社)リフォレながとを中心とし持続可能な森づくりによる林業・木材産業の振興を図ります。
- 林業・木材産業の担い手となる事業体の育成や新規就業者の確保を図ります。

具体的な施策

- ・ 森林の集約化
- ・ 森林所有者への利益還元システムの構築
- ・ 木材サプライチェーンの構築
- ・ 林業事業体の育成
- ・ 新規就業者の確保・支援
- ・ 自伐型林業家の育成・支援
- ・ 苗木生産者の育成・支援

### (2) 林業・木材産業の基盤整備

- 航空レーザ計測を活用し森林資源量を調査し、森林資源の活用を図るための基盤を確立します。

具体的な施策

- ・ 森林GISの構築
- ・ 路網整備

### (3) 総合的な森林整備

- 木育推進拠点施設「長門おもちゃ美術館」を核とし木材利用の普及啓発を図ります。
- 森林空間の利活用を図り、森林や林業を身近に感じることができる取組を推進します。
- 市内に豊富に存在するシイの木を中心とした広葉樹の活用を図る取組を推進します。

具体的な施策

- ・ 持続可能な森林づくり
- ・ 木育の推進
- ・ 森林空間の整備
- ・ ものづくり拠点施設の整備



高性能林業機械



森林環境教育

## 基本方針① 産業・雇用の振興

施策

3

# 水産業の振興



### これまでの取組と現状

本市では、イワシ、イカ、アジなどを中心に多魚種が水揚げされます。これらの水産資源について、漁獲量の確保や魚価の安定化等を図るため、長門市水産業振興計画に沿った取組を進めています。

旬の時期に「仙崎トロあじ」「仙崎ぶとイカ」の仙崎旬宣言を発令し、仙崎ブランドの浸透を推進しており、長門市水産業振興計画等に基づき、水産物の安定供給や高付加価値化の推進に向け、水産業関係者の連携体制の強化を図っています。

### 今後の課題

漁業者の高齢化及び後継者不足により漁業者数は年々減少しており、それに伴い漁獲量も年々減少しています。市民アンケート調査においても、後継者、担い手の確保育成が最も求められています。

一方で、漁獲量への影響も指摘されている近年の高海水温等による漁場環境の変化に対応するため、藻場回復等の水産物育成環境の保全活動や資源管理を行うなど、漁業者を主体とした栽培漁業を継続していく必要があります。

また、漁港施設については、老朽化施設の長寿命化対策を実施し、水産業の生産基盤の安定化に努める必要があります。

### 取組の方向性

長門市水産業振興計画を柱に、水産業関係者が連携し、水産物の安定供給体制の構築や水産物の高付加価値化の推進を図るため、生産及び経営基盤の整備を実施していきます。

漁港施設については、機能保全計画に基づき長寿命化を図るため、適切な管理を実施します。

また、漁家の経営安定のため、後継者対策として関係機関と連携し、新たな担い手の確保や漁場の整備、管理型漁業の推進を図ります。

#### 目標指標 (KPI)

| 指標           | 基準値 (基準年度) | 目標値 (目標年度)          |
|--------------|------------|---------------------|
| 新規漁業就業者数(累計) | 2人(R2)     | 15人(R8)<br>(R4~R8計) |

## 施策の展開

### (1) 水産業の生産基盤の整備

- 未整備漁港の優先的な整備を推進します。
- 漁港の機能保全計画による施設の長寿命化を図ります。

具体的な施策

- ・ 外郭・係留・用地整備等

### (2) 経営基盤の整備・安定化

- 漁業後継者や新たな担い手の確保・育成に努めます。
- 高齢化・漁家減少に対応した漁場の整備に努めます。
- 資源管理型漁業を推進します。
- 水産物・水産加工品のブランド化を推進します。

具体的な施策

- ・ ニューフィッシャー確保育成推進事業
- ・ 藻場礁・魚礁整備
- ・ 種苗放流事業
- ・ アワビ種苗放流育成事業

### (3) 漁村の整備・保全

- 高齢化、後継者不足に対応した漁港の維持管理に努めます。

具体的な施策

- ・ 係船環、照明、用地舗装整備等
- ・ 地域防災計画と連携した漁港施設の高潮・高波対策
- ・ 海岸保全計画の策定及び老朽化施設の機能保全工事



ニューフィッシャー作業風景



仙崎市場初セリ

## 基本方針① 産業・雇用の振興

施策

4

### 商工業の振興



#### これまでの取組と現状

本市では、賑わいが再生され、活気あふれる商工業の実現のため、商工団体(長門商工会議所、ながと大津商工会)への運営支援や、金融支援、創業支援等を実施してきました。

あわせて、事業者自らの創意工夫と自助努力により、民間が主体となって産業振興に資する取組を促進して市内産業の活性化に取り組みました。

また、令和2(2020)年度には本市の経済活性化の指針となる「ながと6G構想」を策定し、令和の時代を勝ち抜くために、10年先の将来を見据えた取組を進めることとしています。

#### 今後の課題

市内企業が持続的に成長・発展していくためには、長門商工会議所、ながと大津商工会などの関係支援機関等と連携し、取組の方向性を共有しながら経営環境の変化にきめ細かく対応していく必要があります。また、新型コロナウイルス感染症の流行により、市内の賑わいや消費者のニーズの状況は変化しています。新しい生活様式に対応し、的確な事業展開や地域内経済の循環などが求められています。

関係団体調査では、市民から「仕事が選べない」という声を聞くと、実際には求人を出す企業は多くあるといった意見もあり、雇用側と働き手双方に対する雇用のマッチングを図っていく必要があります。

また、若者の求職ニーズにマッチする雇用の確保やベンチャー企業等との連携による生産性向上及びイノベーションの創発による雇用の創出を実現するため、企業誘致に取り組む必要があります。

#### 取組の方向性

「地場産業が活躍する、活力あるまち」の実現に向けて、本市の潜在力や強みを最大限に生かし、本市の活力の源となる産業力を伸ばしていけるよう、成長分野での事業創出やIoT、AI等のイノベーションの活用、中小企業の成長支援・経営安定、企業誘致など商工業分野において取り組む施策の体系的・総合的な振興を推進します。

サテライトオフィス等も含めた企業立地促進に取り組み、IT・デジタルコンテンツ産業の誘致、ICT人材の育成支援など戦略的な産業振興を推進します。

#### 目標指標 (KPI)

| 指標              | 基準値 (基準年度)     | 目標値 (目標年度)    |
|-----------------|----------------|---------------|
| 市内事業所数(経済センサス)  | 1,736事業所(H28)  | 1,736事業所(R8)  |
| 年間商品販売額(経済センサス) | 51,069百万円(H28) | 51,069百万円(R8) |
| 企業誘致数(基準値からの累計) | 0(R3)          | 5(R8)         |

## 施策の展開

### (1) 商業・サービス業の活性化

- 市内産業の魅力の発信や人材の育成、創業支援等ができる環境を整え、長門市内で働きたいと思う方々がより魅力的に感じるまちづくりに取り組みます。
- 商工会議所や商工会との連携により、商工業事業の支援を行います。
- 公的資金融資制度等の充実により、中小企業の金融対策、経営力の強化に努めます。
- 豊富な地域資源を活用し、農林水産業と商工業の連携(6次産業化)による産業の育成に努めます。

#### 具体的な施策

- ・ 商工団体への運営支援・育成
- ・ 中小企業の経営支援と経営基盤の安定
- ・ 地域資源の活用や農商工連携による新商品開発への支援

### (2) 企業誘致活動の推進

- 自然災害の影響を受けにくい本市の強みを活かし、中核的産業のさらなる成長が見込める企業の誘致施策を集中して展開し、地元事業者とのベストミックス(最適なバランス)により企業間取引を活発化させ、イノベーションの促進、新規事業の形成及び域外資金の獲得につなげます。
- サテライトオフィス等を含めた企業誘致に取り組み、IT・デジタルコンテンツ産業の誘致、ICT人材育成支援など戦略的な産業振興を推進します。

#### 具体的な施策

- ・ 戦略的な企業誘致活動の展開
- ・ サテライトオフィス立地支援制度の充実
- ・ IT関連企業等集積拠点施設(仮称)の整備



ITフェア

## 基本方針① 産業・雇用の振興

施策

5

# 産業連携による活性化促進



### これまでの取組と現状

本市では、人口減少、基幹産業における後継者不在や従業員の高齢化、さらには消費減退による地域経済への悪影響など、年々厳しさを増す環境に如何に対処していくかが喫緊の課題です。

このため、「ながと物産合同会社」の設立・道の駅「センザキッチン」の開業及びふるさと応援寄附推進事業等により、本市の特色ある農林水産物の認知度向上や販路拡大に取り組んできました。

あわせて、生産者や地元事業者のニーズや地域のアイデアを形にする拠点として「ながとラボ」を整備し、農水産物等地域産品の付加価値を高め、地域内経済循環拡大の取組を行ってきました。

### 今後の課題

他地域より秀でた地場産業があり、この業種に関係する産業も集積しながらも、地域内での取引が希薄であることから、地域外への資金の流出や地域内経済の縮小等課題の解決に至っていません。そのため、地域資源の地域内循環の促進による高付加価値化・地域内取引活発化を図ることが必要です。

### 取組の方向性

産業間連携の仕組みを確立し、シームレス(継ぎ目のない)な連携を促すことで産業間の有機的な結び付きによる強固なサプライチェーンの構築や地域内循環につなげ、地域資源の付加価値を高めることによる新規事業の展開やふるさと応援寄附金に係る返礼品出品をコーディネートすることにより、新たな販路の拡大を支援します。

道の駅センザキッチンの魅力づくりを進め、地域産品販売と交流人口の増加に取り組み、司令塔機能を持つ「ながと物産合同会社」の経営基盤の強化を進めます。また、道の駅センザキッチン「ながと物産合同会社」のアンテナショップとして、提供した地元産品の評価をもとに、地域商社やまぐちなどと連携し、都市圏への展開を図ります。

#### 目標指標 (KPI)

| 指標            | 基準値 (基準年度)    | 目標値 (目標年度)    |
|---------------|---------------|---------------|
| 道の駅センザキッチン売上額 | 729百万円(R2)    | 871百万円(R8)    |
| ふるさと応援寄附額     | 211,392千円(R2) | 700,000千円(R8) |

## 施策の展開

### (1) 地域産品の販路拡大

- 地域の新鮮で安全な農林水産物を活用し、安心な食品などの特産品開発を推進します。
- 地域の飲食店やレストラン、土産物等の販売業者との連携により、特産品や郷土料理の提供に努めます。
- ながと物産合同会社をマーケットイン開発の司令塔とした農水産物の生産や商品開発に取り組みます。
- 都市における販路拡大に向けた商談会や物販PRの強化に努めます。
- 地産地消に向けた市民への啓発活動の推進や宿泊施設、学校給食での地域食材・農水産物の利用の促進により、地域内消費の拡大に努めます。

#### 具体的な施策

- ・ 地場の農水産物を利用した安心な食品開発
- ・ 道の駅センザキッチンでの運営
- ・ ながと物産合同会社と連携した販路拡大の推進
- ・ 地産地消に向けた啓発活動
- ・ 宿泊施設や学校給食における地域食材の利用促進

### (2) 産業関係団体と行政との連携の促進

- 地域資源を活かした事業開発を促進するため、関係機関との連携の充実を図ります。

#### 具体的な施策

- ・ 関係機関への人材派遣等の検討
- ・ 地域資源に光をあてるアイデア・構想の募集や議論の場の設定



道の駅「センザキッチン」



ふるさと応援寄附

## 基本方針① 産業・雇用の振興

施策

6

# 雇用の確保と多様な働き方の推進



### これまでの取組と現状

少子高齢化が進む中で、働きたい人が働きやすい環境を整備するための課題や成長分野に労働力が円滑にシフトしていく柔軟な労働市場を実現していくための企業の人手不足感は着実に強まっています。また、労働供給面をみると、少子高齢化を反映して20歳から39歳まで45歳から64歳までの生産年齢人口が減少を続けています。

そのような中、産官学労の連携強化による地元定着の促進や就業情報の提供、創業支援体制の整備を行い、雇用の確保と多様な働き方の推進に取り組んできました。

また、若者や女性が働きたいと思える魅力的な産業創出・育成に向けて「長門市しごとセンター」を設立し、市内における「ひと」と「しごと」の情報を一元的に集約、発信するハブ機能を構築し、市内産業の魅力の発信や人材の育成、創業支援等ができる環境を整え、市内で働きたいと思う方々がより魅力的に感じるまちづくりを目指し取り組んできました。

### 今後の課題

若者や女性を中心とした市外流出の流れに歯止めがかからず、人手不足への対応や新型コロナウイルス感染症の影響により企業を取り巻く環境が一層厳しくなっており、「新卒者の地域定着」「市外へ流出した学生の呼び戻し」「移住者の受入推進」と併せて「後継者・承継者の確保」について、より積極的な施策展開が必要です。

少子高齢化の進展により労働供給に制約がある中で、限られた労働供給を効率的に就業に結びつけることは重要な課題です。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により幅広い業種で売り上げが減少するなど地域経済に深刻な影響が生じていることを踏まえ、経済活動や市民生活を引き続き支援していく必要があります。

### 取組の方向性

少子高齢化の中で円滑な事業承継を支援するとともにサテライトオフィス支援拠点事業をはじめとしてさらなる創業支援を図ります。

新型コロナウイルス感染症により縮小した経済の回復、行き先不透明な中での景気低迷の長期化への備え、働き方・業態・生活様式の変化に対応した産業の支援を図ります。

若者が未来を見据えてチャレンジできるよう起業・創業にかかる支援体制の構築に取り組めます。

また、「長門市しごとセンター」を中心とした若者一人ひとりが輝く未来をつくるため「まち」「ひと」「しごと」のハブの機能を構築し、地域の未来を自ら創造できる人材の育成に取り組むとともに、若者が未来を見据えてチャレンジできるよう起業・創業にかかる支援体制の構築に取り組めます。

## 目標指標 (KPI)

| 指標               | 基準値 (基準年度) | 目標値 (目標年度) |
|------------------|------------|------------|
| 起業・創業支援件数        | 9件(R1)     | 10件(R8)    |
| 就職件数             | 437件(R1)   | 500件(R8)   |
| 長門市しごとセンター延べ利用者数 | 3,604人(R1) | 7,200人(R8) |

## 施策の展開

## (1) 後継者・承継者の確保と新規就業の創出

- 就業情報の提供を充実し、UJIターン者等への就業支援を行います。
- 所得の向上及び労働意欲の向上による後継者・承継者の確保を図ります。
- 新たな雇用を創出する事業所への支援を行います。

## 具体的な施策

- ・ 就業情報の提供
- ・ 産官学労の連携強化による地元定着の促進
- ・ 後継者育成のための研修会・講習会の実施
- ・ 関係団体と連携し事業マッチングの促進
- ・ 技術・事業経営の実習体験、受入体制の整備
- ・ ICT活用による雇用の創出

## (2) 新規事業の創出・起業支援

- 若者の起業を支援することで、「未来を担う若者が輝くまち」の実現を目指します。

## 具体的な施策

- ・ 起業・創業支援体制の充実

## (3) 産業を担う人材の育成

- 産官学労の連携により、農業・漁業の担い手の育成や研修会・講習会の実施による事業者等の後継者育成に努めます。
- 人材を育成するために、市内中学校・高校生を対象としたキャリア教育を実施します。
- 魅力的に感じる地元企業の育成のため、企業の魅力発信やキャリアアップ支援、相談体制の構築等を実施します。
- 地元企業と若者や移住希望者等のマッチング機会を充実させ、人口定住と市内就業の促進を図るため、就職ガイダンスやインターンシップのコーディネート等を実施します。
- 多様な方々が「出会い」、市内産業の魅力の発信や人材の育成「学び」を行い、互いのアイデアやプランを交わし合う「交流」することで、新たな価値を創造することを目指します。

## 具体的な施策

- ・ しごとセンターを核とした人材育成及び創業への支援
- ・ 地場産業の振興及び創業支援
- ・ 職業環境の向上への支援
- ・ 長門市らしいキャリア教育の研究・開発・実施
- ・ 「ひと」・「しごと」のハブ構築への支援
- ・ 長門市の魅力の発掘・発信



合同企業ガイダンス

## 基本方針② 経済効果を実感できる観光振興

施策

1

### 地域の「稼ぐ力」を引き出す観光まちづくり



#### これまでの取組と現状

本市では、市内での観光消費拡大や交流促進による地域活性化を図るため、観光客の滞在時間の延長や宿泊の誘発につながる仕掛けづくりに取り組んできました。

近年、県内外から多くの観光客が訪れている元乃隅神社や長門湯本温泉、仙崎地区にオープンした道の駅センザキッチンなどによる集客力の向上を契機とし、これらを市内全域の観光資源に波及させ、経済効果を生む観光施策が求められています。市内全体における観光消費の底上げにつながっていないのが現状です。

#### 今後の課題

観光消費を拡大させるためには、観光に関わる事業者が、観光客の増加による経済効果を最大限に活用できる仕組みづくりが必要となります。また、市内の宿泊地と観光地、あるいは観光地と観光地を巡る周遊観光を推進し、地域の「稼ぐ力」を引き出ししていくことも重要です。

しかしながら、地域から「稼ぐ力」を引き出すことは容易ではなく、人材がない、ノウハウがない、時間がない、元手がない、自信がないなど、ハードルが高く、なかなか実践まで到達できていないのが実情です。

また、元乃隅神社が県内有数の観光スポットとして浮上したことで、本市の観光にとっては大きなチャンスを迎えています。こうした観光客の動向が市内の他の観光地への波及を生み出すよう、市内の各観光地を連動させた周遊型観光の仕組みづくりが必要となります。

#### 取組の方向性

観光まちづくりのかじ取り役として、長門市観光コンベンション協会のマネジメント機能の強化や市内の観光事業者をはじめとした各事業者との連携による新たな観光商品の開発、MICEなどのコンベンション誘致などにより、地域で「稼ぐ力」を引き出すことで、観光消費向上の取組を推進します。

さらに、広域で経済を回す仕組みづくりとして、観光拠点を周遊するプランの創出や広域連携体制の強化などの取組を進めます。

#### 目標指標（KPI）

| 指標         | 基準値（基準年度）                          | 目標値（目標年度）                          |
|------------|------------------------------------|------------------------------------|
| 観光客数       | 164万人(R2)                          | 300万人(R8)                          |
| 宿泊客数       | 34万人(R2)                           | 50万人(R8)                           |
| 市内旅行消費額    | 日帰り客 5,385円(R3)<br>宿泊客 27,383円(R3) | 日帰り客 8,000円(R8)<br>宿泊客 35,000円(R8) |
| 県外観光客数     | 82万人(R2)                           | 150万人(R8)                          |
| 外国人観光客宿泊者数 | 1,066人(R2)                         | 12,000人(R8)                        |

## 施策の展開

### (1) 長門市観光コンベンション協会の機能充実

- 観光を総合的にプロデュースするため、長門市観光コンベンション協会のマネジメント機能の強化や協働事業者間の連携体制を整備するための仕組みづくり、プロモーション活動の連携を図ります。
- 中核的観光推進組織である長門市観光コンベンション協会に民間企業の人材を登用し、ノウハウを活かした組織機能強化を図ります。

#### 具体的な施策

- ・ 長門市観光コンベンション協会の機能強化
- ・ 観光まちづくりに向けた関係団体の連携強化
- ・ 民間ノウハウを活用したセールスプロモーション

### (2) 新たな観光商品や事業者と連携した着地型観光商品の造成

- これまでの地域旅をバージョンアップし、市内事業者との連携による新しい着地型旅行商品の造成やワーケーション・プレジャーやICT技術を活用したオンライン観光などデジタル化時代に対応した新たな観光商品の実現に取り組みます。

#### 具体的な施策

- ・ 新たな観光コンテンツに取り組む事業者への支援
- ・ ワケーション・プレジャーに向けた宿泊施設・観光施設の多様な活用
- ・ ICT技術を活用したオンライン観光やDX活用によるコンテンツ充実
- ・ 体験観光プログラムの充実
- ・ ツーリズム事業の充実と地域旅との融合
- ・ クルーズ船の誘致

### (3) 宿泊につながる観光客誘致

- 観光事業者や交通機関など、幅広い主体の連携を強化し、宿泊につながる仕掛けづくりを行っていきます。
- 県や県内市町、観光事業者や交通機関などの関係機関と連携し、MICE・インバウンド対策も含めた広域観光連携・情報発信を行います。

#### 具体的な施策

- ・ 外国人観光客の誘致に向けた環境整備及びプロモーション
- ・ コンベンションの誘致

### (4) 周遊観光の仕組みづくり

- 市内の観光拠点を周遊観光の情報発信拠点として位置づけ、市内観光地への誘導を図ります。

#### 具体的な施策

- ・ 元乃隅神社や長門湯本温泉、道の駅センザキッチンなどの観光拠点と、周辺観光地とのアクセス整備や周遊プランの創出
- ・ 観光地までのわかりやすいサイン誘導
- ・ 観光拠点における積極的な情報提供

### (5) 広域連携体制の強化

- 近隣の自治体や隣県の集客力ある観光地との広域的な連携により、誘客を図ります。

#### 具体的な施策

- ・ 山陰本線観光列車の運行に向けた取組（下関市・萩市）
- ・ JR美祢線を活用した取組
- ・ 近隣地域で構成される組織との連携による広域的な取組の推進
- ・ 隣県の集客力ある観光地からの誘客連携

## 基本方針② 経済効果を実感できる観光振興

施策

2

### 観光地の魅力創出と情報発信の強化



#### これまでの取組と現状

本市では、地域の特性を活用したグリーン・ツーリズムなどの体験・交流型プログラムや、「やきとり」「仙崎イカ」などの地域の食を活かした観光振興に取り組んできたところです。

平成30(2018)年からは、多様な体験観光プログラムを商品化し、市内の企業や団体、個人の皆さんがプロデュースした、長門市ならではのさまざまな体験プログラムを提供しています。

#### 今後の課題

現在提供している着地型旅行商品については、催行率のばらつきもみられるため、ニーズに合ったメニュー内容の検討やターゲットごとの情報発信の手法等についての工夫・検討が必要です。

また、新しい生活様式に対応できる形での体験型観光事業に取り組む必要があります。

関係団体調査では、コロナ禍で屋外レジャーが人気となっており、全国的にキャンプ場が賑わっていることから、キャンプ施設の整備を求める声があがっています。また、アウトドア体験やスポーツ体験、文化・伝統体験をはじめとした「長門市ならではの」魅力を地域の人、事業者と連携、協力してつくるために、資源の洗い出し、掘り起こしを行い、関わってもらえる人とのつながりをつくるのが大切です。

#### 取組の方向性

新たな長門の魅力の創出にあたり、本市の自然環境を活かしたアウトドアツーリズムやスポーツツーリズム、昔ながらの生活スタイルや伝統芸能、職人技など、地域に根付いた文化に着目し、観光資源の掘り起こし及びブラッシュアップなどに努めます。

また、訴求力のある戦略的情報発信力の強化を図り、本市の知名度向上や特色豊かなエリアごとの観光資源の発掘を図ることで、さらなる観光客の誘致を行い、観光消費の拡大を図ります。

#### 目標指標 (KPI)

| 指標                        | 基準値 (基準年度) | 目標値 (目標年度) |
|---------------------------|------------|------------|
| 長門市観光情報Webサイトアクセス件数(1日平均) | 2,486件(R2) | 4,000件(R8) |
| リピーターの割合                  | 51.9%(R2)  | 55.0%(R8)  |

## 施策の展開

### (1) 新たな長門の魅力の創出

- 本市の食や土産物をブラッシュアップし、知名度とブランド力の向上を図ります。
- 近隣市と連携したアウトドアツーリズムの推進を図るとともに、拠点となるキャンプ場の整備やツーリズム事業と周遊観光の創出により、集客を図ります。
- スポーツや文化・伝統を活かし、魅力度の高い観光事業を創出します。
- 夜の観光コンテンツや季節性のある観光素材づくりを行い、話題性のある観光事業により集客を図ります。

#### 具体的な施策

- ・ながとの「食」や「土産物」の魅力向上
- ・既存素材やイベントのブラッシュアップ
- ・近隣自治体との連携による観光メニューの充実
- ・話題性のある観光コンテンツの造成
- ・文化施設等との連携

### (2) 情報発信の強化

- 長門の知名度を上げるため、訴求力の強い戦略的情報発信や観光プロモーションを行っていきます。
- デジタルマーケティングの結果を分析し、最適な観光素材、ターゲットやニーズに応じた情報発信を図ります。
- 旅行先で次の行先を決める観光客も多いことから、旅行中の情報発信強化に努めます。

#### 具体的な施策

- ・ターゲットを明確にした戦略的な情報発信
- ・民間と連携した情報発信
- ・メディア等への積極的な情報提供
- ・ロケ地誘致に向けた取組
- ・観光事業者や市民自らによる情報発信・誘発のための仕組みづくり
- ・旅行中の情報発信強化



シーカヤック体験



音信川うたあかり

## 基本方針② 経済効果を実感できる観光振興

施策

3

# 観光地の質の向上の推進



### これまでの取組と現状

本市では、ながと成長戦略行動計画に掲げられている3つのエリア(仙崎、湯本、俵山)について、観光振興の核となる拠点として整備し、仙崎地区では道の駅センザキッチンの開業、長門湯本温泉では、温泉街の再生を目指した観光まちづくり事業、俵山地区では「ONSENガストロノミーウォーキング」などのヘルスツーリズムの推進に取り組んできました。

また、県外から本市へ訪れる観光客の交通手段として、新山口駅と本市を結ぶ直行便の運行やレンタサイクル事業など、二次交通、三次交通の整備に取り組んできました。

### 今後の課題

全国的にはまだ知名度の低い本市にとって、観光客の満足度を高め、口コミ等による知名度の向上を図るため、観光地の質と魅力の磨き上げは取り組むべき課題といえます。

人口減少が進む本市では観光人材の不足も見込まれることから、観光人材の育成や市民が観光まちづくりを主体的に進めていくためのシビック・プライドの醸成も必要となります。

また、国内外から観光客を誘致するためには周辺市町や県との連携、さらには主要交通拠点からのアクセスの向上が必要不可欠となります。

さらに、近年は新型コロナウイルス感染症の流行が観光客数に影響を与えており、新しい生活様式に対応した観光事業者への支援について検討する必要があるほか、観光施設の老朽化も進んでいることから、優先順位を付けた整備の実施や安全・安心な環境整備が課題となっています。

### 取組の方向性

各エリアでの特性を活かし、景観に配慮したまちなみ整備や観光サービスの充実により、質の高い魅力あふれる観光地づくりを推進します。また、新型コロナウイルス感染症の流行など社会情勢の変化に対応できるよう観光事業者の経営力向上や事業継続化の支援、新しい生活様式に対応した観光地づくりに取り組み、安全・安心して観光に訪れることができる環境づくりを推進します。

また、JRやバス・タクシーなどの事業者と連携した二次交通・三次交通対策についても継続した事業実施に取り組めます。

#### 目標指標 (KPI)

| 指標       | 基準値 (基準年度) | 目標値 (目標年度) |
|----------|------------|------------|
| 観光ガイド数   | 27人(R2)    | 60人(R8)    |
| 二次交通利用者数 | 1,726人(R2) | 6,000人(R8) |

## 施策の展開

### (1) 安全・安心な観光地の確立

- 社会情勢の変化に対応した観光地づくりを支援し、観光客に安全・安心して訪れていただく環境整備に取り組みます。

#### 具体的な施策

- ・ ニューノーマルに対応した観光事業者への指導・支援
- ・ 観光地における安全対策
- ・ 安全・安心に配慮した観光地づくり

### (2) シビック・プライド醸成による観光人材の育成

- 観光客の嗜好にあった楽しみ方を提案できる観光人材を育成し、おもてなし力の向上を図ります。
- 市民のシビック・プライドの醸成を図るとともに、観光事業における市民と事業所との連携体制の確立を図ります。

#### 具体的な施策

- ・ 長門のおもてなし力の構築
- ・ 市民を巻き込んだ観光振興
- ・ 研修による接客スキルの向上

### (3) ながと観光の質と魅力の磨き上げ

- 5つの温泉を巡る仕組みや、温泉街の風情を活かしたまちなみ整備を推進します。
- 長門湯本温泉や依山温泉、道の駅センザキッチンなどエリアごとの特色あるまちなみ整備や拠点機能の強化を図り、ながと観光の質と魅力の向上に取り組みます。

#### 具体的な施策

- ・ 長門温泉郷の魅力を活かした取組
- ・ 長門湯本温泉観光まちづくり事業の推進
- ・ 依山温泉の活性化に向けた取組強化
- ・ 仙崎地区周遊促進の仕組みづくり
- ・ その他地区の観光振興

### (4) 観光地の景観保全

- ビュースポット周辺の環境整備や老朽化施設等の整備など、観光地の景観保全に取り組みます。

#### 具体的な施策

- ・ 老朽化施設等における優先順位をつけた整備の実施
- ・ 市民協働による観光地清掃活動
- ・ ビュースポット周辺の環境整備
- ・ 観光客にわかりやすい案内看板の整備

### (5) 二次交通・三次交通の整備

- JRやバス・タクシー事業者と連携し、二次交通対策を充実させ、観光客の利便性を図ります。
- レンタサイクルによるエコ観光の推進に取り組みます。

#### 具体的な施策

- ・ 新山口駅発長門行き直行便等の継続と利便性向上
- ・ 山口宇部空港発長門行き直行便等の検討
- ・ 二次交通・三次交通の整備
- ・ レンタサイクルによるエコ観光の推進



長門湯本温泉観光まちづくり



レンタサイクルによるエコ観光の推進

